

産休・育休中も、ひとりきりという感覚はありませんでした。

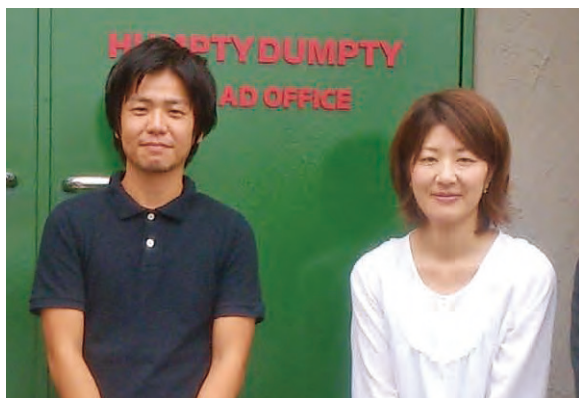
株式会社ハンプティ・ダンプティ

本社 ■ 〒371-0056 群馬県前橋市青柳町198 2F

■ TEL.027-233-8233

■ <http://www.humpty-dumpty.jp/>

- 人事部サブリーダー 左近作 景子さん
- 運営部サブリーダー 上屋敷 徹さん



Q これまでキャリアを形成していくにあたっての実質的なサポートはありましたか。また、その支援を受けるために努力したことはありましたか。

A (左近作さん) この仕事を始める、続けるという点においては、勤務の変更してもらったり、産休を取ったあとに短時間勤務ができたり、そういう面ですごく支援してもらいました。支援については人事部として自分が携わって作ったのですが、「権利がある人皆が使いやすいように、当たり前」のものを」という意識で考えました。他社の事例等を調べていろんな事を考えながら、導入すべきものはなにかというのを考えて、社長に選択していただきました。

Q 仕事を継続する上で、何か印象深いエピソード等あれば教えていただけますか。

A (左近作さん) 何度か仕事を継続していくべきか悩んだ時期もありましたが、上司に続けてほしいと言われて、仕事内容を見直して頂いたり、第二子妊娠、出産時も休暇を取らせていただき、仕事も復帰できました。産休、産休に入っている期間は仕事と連絡が断ち切られていますが、半年たったころ連絡があり、今の生活や保育園などに関して話ができて、会社から離れすぎずに

過ごすことができました。また、毎月会議の資料を送ってもらい、おおまかなことを知ることができましたので、休んでいる間にひとりきりという感覚はなかったという点は良かったと思っています。

Q 男性で育児休暇を取得なさったと伺いましたが、どのように取られたのですか？

A (上屋敷さん) 自分は男性ですが、育児休暇を取りました。実は、育児休暇を男性が取れるとは思っていませんでした。子どもが生まれた時に、人事部の方から育児休暇が取れると聞いて、せっかくだから一週間だけ取ってみようかなと思い、取らせてもらったという感じです。男性の育児休暇取得者は自分で3人目です。もちろん仕事に支障が無いように、先を見て準備をしておきましたが、取りづらい雰囲気は全く感じませんでしたね。有給休暇とか、認められた権利について取りやすい風土が社内にありますね。

Q 生活に関して、家事と育児の割合と、それに対する考えを聞かせてください。

A (左近作さん) 8割、9割を自分で行っています。家事といってもご飯を作ったり子供を寝かしつけたり、

洗濯、保育園の送迎など、普段多くの人がしていることと一緒にです。子どもが小さい今の時期だから大変だと考えているので、もう少しすれば自分が楽になつていくのかなと考えて頑張っています。夫は私がやりたいことにはできるかぎり協力してくれるといった感じで、そのおかげで今の仕事も続けられているのだな、と思います。お互いに行えることはやれば良いというスタンスです。



学生の声

ハンプティ・ダンプティさんは、女性の方が多く働いている企業でした。そのため、女性社員自身が女性の働きやすい職場を作るために、新たに制度を作っていました。女性の立場から見た制度が作られることは、大変良いことだと感じました。また、私自身も、もしそのような制度がない会社で働くことになったら、自分からアクションを起こして、働く環境づくりを行いたいと感じました。